



No.14

平成10年(1998)2月27日
編集・発行
津田左右吉博士顕彰会
美濃加茂市島町2-5-27
TEL 0574-28-8551

文明義校の先生たち

その一

神谷尚樹



野田有尚



文明義校跡地周辺(右後方は米田富士)

私は、明治六年に福島村に創立された「文明義校」で津田藤馬氏とともに「助教」として教鞭をとっていた野田有尚の曾孫にあたるものです。私の祖父は旧姓を野田駒三といい、明治十五年福島村に野田有尚の四男として生まれましたが、七歳の時に名古屋市の神谷(有尚の妹が嫁いでいたが、子がなかった)へ養子に出され、以来私達は神谷姓を名乗っています。

野田有尚は、文政十年(一八二七)十一月二日に野田金蔵(武右衛門)の子として名古屋に生まれました。津田藤馬氏より十六歳年長です。何分にも昔のことですので殆どわからないことばかりですが、野田有尚は維新後改名するまでは、野田順蔵と称していたようです。「愛知県公

文書館」に保存されている「明治八年旧名古屋県高名簿」を見ますと、野田有尚の名で永世禄七石六斗とあり、明治八年三月中奉還と記されています。十分ではありませんが、微禄であったようです。

私の父は、「有尚は犬山藩で漢学を教えていたことがあるそうだと、駒三から聞かされたと言っています。今となっては、真偽の程はわかりません。しかしながら、津田左右吉氏の『子どものときのおもひで』のなかに、「その一人は、これもナゴヤの旧藩士で、どういふ関係があったか、フクシマに移住していた人であった。いくらかの漢学の力があつたので、学校の先生になつたのであらうか。」(『津田左右吉全集』より)と、野田有尚についてと思われる記述がありますので、一応漢学を学んでいたのでしょうか。因みに、我が家には、有尚の自作と思われる漢詩が自筆の書として残っています。

さて、野田有尚がいつ頃に名古屋から福島村へ移住したのかを知る資料もありません。しかし、最近入手できた野田有尚の三男である野田幾三郎(津田左右吉氏と同じく明治六年生まれで、「文明義校」で一緒に学び、一緒に卒業し、兩名とも名古屋の中学校へ進んだ)の履歴書によれば、「その生国欄」には「名古屋市芳野町」とあり、幾三郎は福島村ではなく、名古屋生まれのようです。野田有尚の本籍地は、死亡するまで「名古屋市東芳野町一番戸」でしたので(芳野町と東芳野町とは隣接している)、幾三郎が生まれた明治六年五月当時には、名古屋に在住していたと思います。

余談になるかも知れませんが、前述の津田左右吉氏の『子どものときのおもひで』の三十七頁、左右吉氏が藤馬氏に連れられて藤馬氏の名古屋時代の屋敷跡を尋ねる場面があります。そこは「新屋敷」と呼ばれていた所で「竹越家」の家中の屋敷が集まっていたとありますが、その「新屋敷」こそ、その後明治初年から新たに「東芳野町」と標記された場所です。野田有尚の旧宅もそこにあった訳です。

また、「文明義校」の入学者者名簿を閲覧しますと、明治十年七月十五日付けで有尚の次男(剛子)と記されていますので、既に長男は死亡していたのでしよう。野田幾三郎の名があります。ですから、遅くとも明治十年七月までには、野田有尚の一家は福島村へ移住していたようです。尚、幾三郎は「文明義校」で初めての「小学全科卒業生」で、卒業後、名古屋の「愛知県師範学校」へ進学したようですが、「給費生」ではなく「自費生」であつたらしく、金銭的にも恵まれず苦しい下宿生活を送るうち、ついに二年生の頃に衰弱死したようです。(このことは、有尚の妻ですが大正年間に駒三の嫁に物語っていたようで、昭和十一年付けの、幾三郎に触れた駒三の嫁の手紙が残っている) ところで、前記の津田左右吉氏の記述は、「(野田有尚が)どういう理由でかは知らないが福島村へ移住してきて、漢学の力があつたので、(頼まれて)学校の先生になつたのだらうか」と読めます。しかし私には、野田有尚は「文明義校」の「先生」として、福島村へ移住してきたと思われなりません。もし、「先生」の仕事がなかったとすれば、彼は福島村でどんな仕事をするつもりだったのでしょうか。明治二年に、名古屋藩から美濃今尾藩が分離独立したために名古屋を離れざるを得なかった津田藤馬氏

とは、事情が異なります。

明治維新後、失業した士族たちにとって、役人や教師はいい仕事口だったようです。五、六歳を頭に二人の子持ちであり、自身も既に四十六、七歳となれば、野田有尚にとって就職は喫緊の問題であった筈です。福島村での「先生」の仕事は、野田有尚にとって、それなりの魅力があったことと思います。

福島村は旧幕時代から名古屋藩の領地であった関係で、その後何らかの連絡は取れていたのではないのでしょうか。

こうして、「先生」となった野田有尚は、息子たちにも教師の道を選ばせたのでしよう。前述のように鎌次郎は「愛知県師範学校」へ進学します。また、三男幾三郎も「愛知県中学校」を経て「愛知県尋常師範学校」。そして東京の「高等師範学校・英語専修科」(師範学校は全面的に学費を免除された)へ進学しました。そして、卒業した幾三郎は全国の中学校で英語教師・校長をした後、学習院教授となりました。その後は、大正八年に満州の奉天に新設された行政政府「関東庁」の長官秘書官となり渡満します。津田左右吉氏も初めは教師をしておられたようです。明治時代の貧乏士族の子弟には「教師」は立身の有力な手段だったようです。

県広報コンクールで特選に輝く

昨年に続き、津田左右吉賞の募集ポスターが、平成九年度岐阜県広報コンクールのポスターの部で特選に輝きました。このポスターは「広報の意図がよく伝わってくる」という評価を得ました。



津田左右吉賞

審査結果

第十三回津田左右吉賞の授賞式を、平成九年十月十九日(土)に開催しました。今回も多くのお秀な作品が県内各地から寄せられ、その中から津田賞の入賞者が決定されました。次に、津田賞の入賞者を報告いたします。



小学校の部

最優秀賞

古井小 6年 木野 晴奈
思いやりのある人に

優秀賞

御嵩小 5年 安藤 千織
御嵩町をもっともつと
愛するために
山之上小 5年 山田 光宏
父の仕事をつぎたい

佳作

桜ヶ丘小 6年 伊藤 理砂
私はこんな人になりたい
桜ヶ丘小 6年 新井 梢
私の将来になりたい姿について
古井小 6年 蟹江 杏奈
歌で広がる私の友達

山手小 6年 菊池 紀人
すばらしい仲間
伊深小 5年 木澤ゆかり
看護婦さんになりたい

御嵩小 6年 田中 郁江
私の友達
太田小 6年 林 秀弥
友達の大切さ

下米田小 5年 若尾 藍
友達
下米田小 6年 渡辺 健太
将来のわがふるさと

太田小 5年 渡辺 晴子
私はこんな人になりたい

伊深小 6年 吉塚 佳菜
将来のわがふる里

中学生の部

最優秀賞

西中 2年 三好 寛子
「感動できる人」になりたい

優秀賞

西中 2年 伊藤香緒梨
私の将来
西中 3年 尾石 光美
ぼっちゃんがくれた夢

佳作

東可児中 2年 山内 唯子
職場体験
大垣北中 2年 加納 麻衣
世界にも目を向けて

松倉中 3年 日下部貴子
友達
東中 1年 坂井 理恵
看護婦をめざして

神淵中 3年 長尾 香織
いつも私のそばにいる人
双葉中 2年 西村 裕子
この手のぬくもり

東中 2年 長谷川佳子
将来の夢

(優秀賞・佳作は五十音順)

「津田左右吉物語」 学習発表会

下米田小学校の学習発表会が行われ、毎年恒例になった4年2組の「津田左右吉物語」が上演されました。

発表会は、祖父母約百名が見守る中行われ、日頃の学習の成果を見せるため、各学年・学級の児童が、真剣に取り組みました。緊迫した演技に見入り、また、ちょっとしたしぐさに会場が笑いの世界に変わりとても秀囲気の良い学習発表会でした。学校生活でひたむきに取り組んできた子ども達の姿を見ることができました。

4年2組のみなさんは、津田博士の生きざまを通して、自分たちの街や歴史を知ることができたと思います。





北上空からの全景

博物館の構想

美濃加茂市が計画している(仮)「文化の森」は、文化的な活動の場をつくることを目的としています。ここには、中心となる博物館などの施設と自然を生かした場所がつくられます。

博物館には、常設展示室、美術工芸展示室、企画展示室、映像ホール、情報コーナーなどができる予定です。常設展示室は、「川」をキーワードに美濃加茂の自然と歴史が紹介されます。展示内容は欲張らないで、わかりやすく楽しい展示を目指しています。この展示の一部に郷土を代表する偉人の坪内逍遙博士と津田左右吉博士の業績や人となりを紹介されます。津田博士の展示室には、生い立ちや、書、遺品などが紹介される予定です。

「津田博士のお話を聞く会」

講師 大沢 功
下米田小学校にて



顕彰会副会長の大沢 功氏が、平成九年十月二十一日に下米田小学校の6年生を対象に津田博士についての話をしました。子ども達は、下米田小学校の先輩について興味深く聞き入っていました。

講話は、小学生から質問を聞いて、それに答えるという方法でした。講話の内容は以下の通りです。

- ・津田博士の逸話や人となりの紹介
- ・津田博士の子ども時代
- ・津田事件の裁判について
- ・津田博士は努力の人であったこと
- ・津田博士の仕事について
- ・日本の古代史
- ・日本の国民思想史
- ・世界に通用する学問の確立
- ・津田左右吉賞の入賞について

子ども達は、「博士について理解できました。博士のように立派な人になりたいです。」と感想を述べていました。

インターネットで美濃加茂市ホームページを公開中

現在、インターネットのホームページにて美濃加茂市の情報を提供しています。美濃加茂市の概要や市の毎月の広報、(仮)文化の森の情報などを見ることができ、美濃加茂市の情報を素早く入手するには最適なページです。

津田博士に関しては、以前に美濃加茂市広報に掲載した「津田左右吉物語」のほか、「津田左右吉博士略年譜」「津田左右吉アルバム」などを公開しており、それらを称して津田左右吉ワールドとしています。このほかにも、津田左右吉賞の入賞者や優秀作文を載せています。実は今年度は、実験的に作文の応募用紙を入手できるようにもしてみました。

内容はこれからいっそうの充実が望まれるところですが、機会があればぜひ一度のぞいてみて下さい。ご意見ご感想をお待ちしています。

【美濃加茂市ホームページ】

<http://www.city.minokamo.gifu.jp/index.html>

【美濃加茂市文化課電子メールアドレス】

bunka@city.minokamo.gifu.jp

津田左右吉 生家保存委員会の 発 足

美濃加茂市は、津田左右吉博士生家保存の準備を始めました。生家保存に中心的であった顕彰会にも計画の説明があり、協議の結果、発起人を集めて、生家保存について話し合いました。発起人会では、「津田左右吉博士生家保存委員会」を発足させ、地域全体の意見を聞くことになりました。

保存委員会が平成九年九月に発足し、保存についての会議が開催されました。会議の結果、発起人の代表である顕彰会の佐会長が代表に決まり、続いて全会一致で生家保存を市に要望することに決まりました。今後の保存活動に注目していききたいと思います。